

# ちょっとまって！むつ中間貯蔵への搬入

## 子や孫に核のゴミを残してもいいの？ ……

これまでの県議会や市議会での説明・質疑をつうじて、むつ中間貯蔵施設に貯蔵された使用済み核燃料の搬出先がないこと、核燃料サイクルの見通しが立たないことが明確になっています。六ヶ所再処理工場すら動かない中で、むつ中間貯蔵施設の搬入だけを急ぐ理由はありません。この状況でむつ中間貯蔵への搬入を進めてしまうと、子や孫たちに核のゴミが強引に押し付けられることになります。

### 50年後の使用済み核燃料の搬出先は決まっているの？

#### 決まっていません。核のゴミ捨て場になるのは必至です

この間の国や東電の答弁は、50年後の搬出先とされた『第二再処理工場』は「状況の変化」により計画から消した、「六ヶ所再処理工場の可能性があると言ったが」搬出先と「特定するものではない」、「搬出先がないことは想定していない」、というものです。搬出先がないのに、ないことは想定しない、という無責任なものです。

#### 【この間の議会での答弁より】

搬出先はどこか？…「搬出時に稼働している再処理工場」（エネ庁）

『第二再処理工場』の記載を削ったのはなぜ？…「状況が変化したから」（エネ庁）

「六ヶ所再処理工場の可能性があると言ったが特定するものではない」（東電）

ではどこか？…「搬出時に稼働している再処理工場」（エネ庁）

再処理工場がないときは？…「再処理工場がないことは想定していない」（エネ庁）

東電も…「国の方針に沿い、搬出時には再処理工場の稼働が確保される」（東電）

### 核燃料サイクルの見通しは立っているの？

#### 六ヶ所再処理工場の9月完工？ 延期は不可避です

六ヶ所再処理工場の9月完工について「延期は不可避」と報じられています。国内では初となる再処理工場の審査では、耐震設計の審査等が続いています。

25,000もの機器を類型化するのも難しい問題です。延期は周知の事実であるのに、事業者は延期発表を意図的に遅らせています。六ヶ所再処理工場は建設開始から31年、約15兆円を投入しても完成していません。



## プルサーマル計画は進んでいるの？

「来年のプルトニウム利用は分からない」のに、50年先のことなど分かりません  
「しっかりやっていく」だけでは信用できません

東京電力のプルサーマル計画が進まないのは立地地域の信頼をえていないからです。いつになったら信頼回復するのかという問いに東電は答えられませんでした。

電力会社のプルトニウム利用計画に対して、原子力委員会が、来年度以降の計画の「内容を検証し妥当性を評価することは困難」としていることについて、来年のことも見通せないのに50年後は大丈夫だとの根拠を示せとの質問がでしたが、「しっかりとやっていく」との抽象的な決意表明だけで具体的な回答はありませんでした。

日本は「プルトニウム保有量を削減する」との原子力委員会決定による国際的な約束により、プルサーマルで消費した分しか再処理を行うことができません。

### 【この間の議会での答弁より】

信頼回復はできたか？…「プルサーマル計画を具体的に示すことはできない」(東電)  
(来年度以降のプルトニウム利用計画を)「評価することは困難」(原子力委員会見解)  
今後の計画は？「プルトニウムの利用計画を見通せる状況にはない」(東電)  
今後の計画は？「六ヶ所再処理が未竣工でプルトニウム利用は推進の途上」(エネ庁)

## 安全協定案のここが問題 → 搬出先について記載がありません

安全協定案には、50年後の搬出先について記載がありません。具体的な搬出先を明記するよう要求すべきです。明記されない限りは搬入を認めないとすべきです。

### 安全協定を検討する状況にはありません

核燃料サイクルについて、①六ヶ所再処理工場の稼働状況、②六ヶ所MOX燃料加工工場の稼働状況、③プルサーマルの実施状況のいずれも不透明で見通しが立たない状況です。六ヶ所再処理工場すら稼働できない状況でむつ中間貯蔵の搬入手続きだけを急ぐ理由はありません。安全協定以前の問題です。

子や孫に核のゴミを残さないために、使用済み核燃料の搬入に反対しましょう。

2024年7月1日

むつ中間貯蔵施設・使用済み核燃料搬入反対現地実行委員会  
原子力規制を監視する市民の会